

川越 正隆

富士通エフ・アイ・ピー株式会社

システム技術推進部

オフショア開発における単体テストの生産性向上策

～入力支援ツールによる言語の壁の克服～

講演概要

近年、IT業界ではコスト削減や要員確保を目的としたオフショア開発が広がりつつある。当社も中国でのオフショア開発を推進しており、その中で様々な課題に直面し、克服してきた。本論文ではオフショア開発の中でもドキュメントの日本語化という課題について当社の取り組みを説明する。

中国オフショア開発においてもドキュメンテーションは日本語で行われることが通常である。日本語スキルに優れた要員を揃えることが理想ではあるが、日本語スキルが低い要員が開発チームに加わることもある。すなわち、ドキュメントの翻訳という作業が避けられない。ドキュメントの翻訳方法については様々な方法があるが、検討の結果、今回は翻訳ソフトの活用による翻訳を試行した。

翻訳ソフトは安価かつ高速に翻訳することが可能であるが、翻訳精度が課題となる。事前の検証結果でもシステム用語や文章については特に翻訳精度が芳しくなかった。そこで、翻訳ソフトを活用するために、(1)システム用語や設計項目などの用語を翻訳辞書に登録する(約3000項目)、(2)長文ではなく短文の翻訳に限定するといった対策を講じた。これらの対策の結果、単体テスト仕様書の翻訳については、日本語として問題のないレベルで訳せることができた。課題となるのは、翻訳辞書に登録されている単語のみを利用させることである。日本側で用意した単語を利用してもらわない限り、翻訳の精度は向上しない。そこで、「入力支援ツール」というドキュメント作成の補助ツールを開発し、これを使用してもらうことで翻訳精度を確保した。

「入力支援ツール」はExcelのアドインであり、Excel上で文章を作成する際の補助ツールとして活用する。主な機能はあらかじめ登録した語句をリストより選択し、セルに入力するというものである。単体テスト仕様書は定型な文章で記入することが可能である。すなわち、定型文章、単体テスト頻出単語、定義情報(画面項目定義、テーブル定義など)を入力すれば単体テスト仕様書が出来上がる。今回は「入力支援ツール」の入力用辞書に上記の3つを中国語・日本語の両方で追加した。その上で、日本語があまり得意でない要員1名に「入力支援ツール」を使って単体テスト仕様書を中国語作成してもらった。すなわち、単体テスト仕様書作成フローは以下の通りとなる。

(1)中国で「入力支援ツール」で単体テスト仕様書を中国語で作成する、(2)翻訳ソフトを使い単体テスト仕様書を中国語から日本語に翻訳する、(3)日本語に翻訳された仕様書を日本の要員がレビューする。

成果としては以下の3つが挙げられる。

- (1) ツールに対する慣れが必要であったが、最終的には日本語スキルがある要員と同等の生産性で単体テスト仕様書を作成することができた。すなわち、日本語スキルが低い要員が日本語の仕様書を作成するより大幅に生産性は向上した。
- (2) 作成された中国語仕様書を翻訳ソフトで翻訳した結果、ほぼ問題なく日本語に翻訳できた。
- (3) 仕様書の表現が統一され、読みやすくなった。

今後は辞書の作成など事前準備の効率化に取り組むと共に、一層使いやすいツールへと改良を加えていく予定である。

F3b

7月25日

13：10～13：55

会議室B